

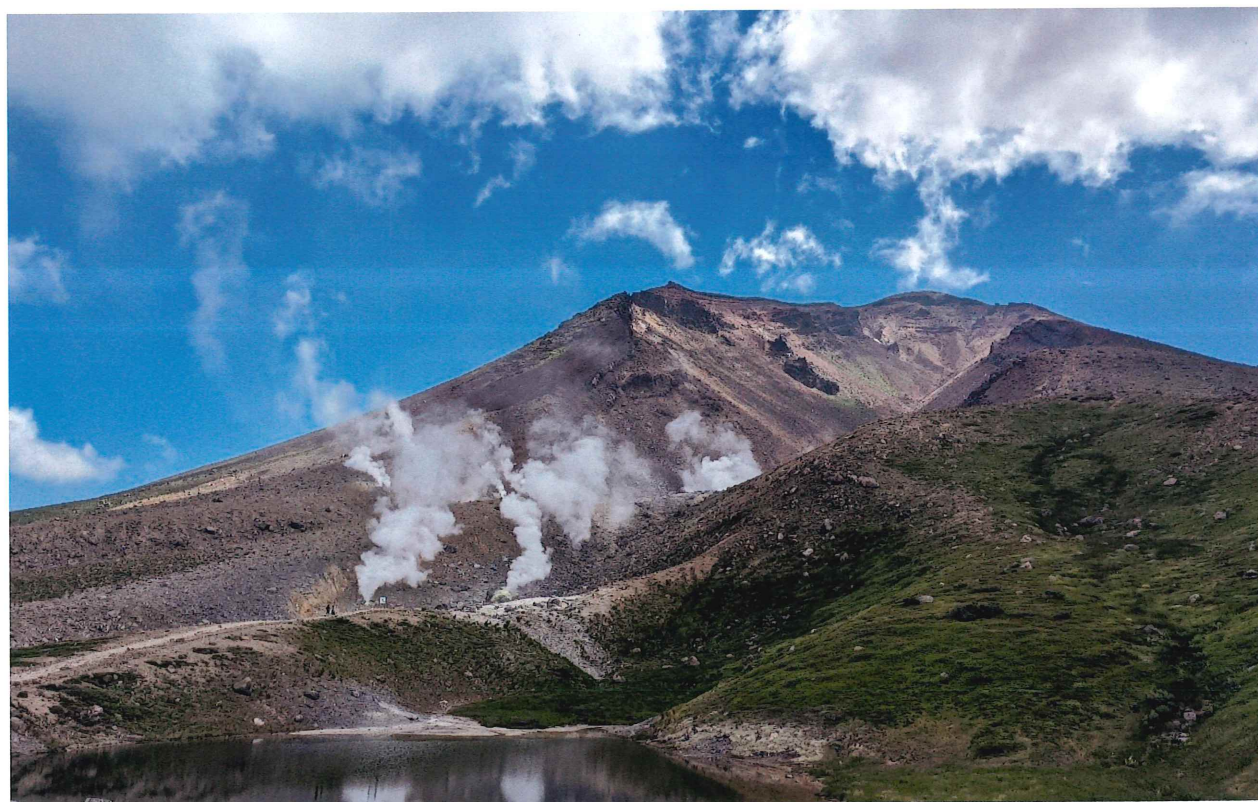
第 6 1 回

北海道高等学校登山選手権大会

兼第 6 6 回全国高等学校登山選手権大会北海道予選会

2022 年 6 月 21 日(火)・22 日(水)・23 日(木)・24 日(金)

旭岳、黒岳～北鎮岳～中岳



主 催 北海道高等学校体育連盟・北海道教育委員会・北海道山岳連盟

後 援 東川町 上川町

東川町教育委員会 上川町教育委員会

主 管 北海道高等学校体育連盟登山専門部・北海道高等学校体育連盟旭川支部

当番校 北海道旭川工業高等学校

協力校 北海道旭川東高等学校 北海道旭川西高等学校 北海道旭川北高等学校
北海道富良野緑峰高等学校

歓迎のことば

当番校 北海道旭川工業高等学校

校長 稲 津 誠

第 61 回北海道高等学校登山選手権大会兼第 66 回全国高等学校登山選手権大会北海道予選会の開催にあたりご挨拶いたします。全道各地から予選を勝ち抜き全道大会に出場する選手の皆さん、ようこそ道北の中心都市の旭川へ、心より歓迎します。今年もコロナ禍の中で大会が行われます。全道大会出場までの道のりは感染症対策との戦いもあったかと思います。また、このことにより練習に工夫を凝らし努力してきたことと思います。日々の努力の成果を本大会で最大限に発揮することを期待しています。

今年度、本大会は大雪山系の北海道最高峰である旭岳、黒岳～北鎮岳～中岳といずれも標高 2 0 0 0 m 前後で登山家に人気のある憧れの場所です。高校山岳部が本格的な登山競技を行う山としてもふさわしいと思います。本大会は皆さんが目標としている全国高等学校総合体育大会につながる大会です。知識と技術の限りを尽くして全国大会をめざして頑張ってください。

結びになりますが、本大会は旭川工業高校が当番校を務めます。選手の皆さんが日頃の鍛錬の成果を思う存分発揮できるよう、思い出に残る大会になるよう大会運営にあたりたいと考えております。また、本大会の運営にご協力いただきます、登山専門部の皆様、各校顧問の先生方、東川町、上川町をはじめ関係機関の皆様に感謝申し上げ、歓迎のご挨拶とします。

大会役員

名誉大会長	小野倫夫								
大会長	駒井博和								
副大会長	吉田岳夫 相沢克明 山内亮史	町田英謙 高倉利一郎	大浦充 木幡かおる						
顧問	松岡市郎 荒川裕生	佐藤芳治	倉本博史						
参与	中澤美明 尾形友秀 杉山昌次	今村隆之 高野瑞洋	高橋和孝 三條孝歩						
大会委員長	稲津誠								
大会副委員長	遠藤康浩								
大会委員	土居昌彦 太刀川健一 内海健一 小池圭太 三戸太涉 飯田一三 相田敬史 鈴木容佳子	宮田五輪夫 高野純平 細野護平 港納哲秀 山野和亮 小々木高 佐石丸高志	大友剛靖 桂野和宏 畑永直樹 松本口和一 藤蓑口一 青沼						
安全対策委員長	小野倫夫								
安全対策副委員長	細野護	小池圭太							
安全対策委員	関村康則	業天真由美							

大会実行委員

審査委員長

細野 護 (旭川北)

審査委員

【男子】

飯田 一三 (旭川東)
藤原 浩二 (有朋苫小牧)
青沼 宏 (市立函館)
山下 宗紀 (旭川商業)
畑野 和宏 (遠 軽)
小野 和彦 (北見北斗)

【女子】

相田 敬史 (釧路湖陵)
鈴木 容佳子 (江 別)
山納 秀俊 (小樽潮陵)
港 哲平 (札幌西)
松永 直樹 (函館ラサ)
高橋 健一 (旭川東)

隊長

佐々木 亮介 (札幌北)

三戸 渉 (室蘭栄)

副隊長

【男子】

菱口 一哲 (帯広柏葉)
塩谷 和樹 (市立函館)

【女子】

桐尾 義之 (高体連OB)
松本 奈巳 (札幌北)

コースパイロット

細野 護 (旭川北)

竹中正喜 (釧路商業)

サポーター

【男子】

内海 健一 (旭川北)
大塚 徹 (札幌南)
牛久保 琢哉 (旭川永嶺)
高井 勝巳 (高体連OB)
木村 宣幸 (北広島)
漆山 裕章 (旭川西)
瓶田 幸宏 (富良野緑峰)

【女子】

山下 文孝 (高体連OB)
藤本 和夫 (岩見沢東)
及川 研一郎 (旭川北)
城座 研一 (富良野緑峰)
川名 典道 (旭川東)
西 千秋 (高体連OB)
石丸 高志 (旭川西)

通 信

関村 康則 (旭川工業)

業天 眞由美 (旭川工業)

ペーパーテスト

竹中正喜 (釧路商業)

天気図

木村 宣幸 (北広島)

現地本部

小池 圭太 (旭川工業)

大会補助

旭川工業高等学校山岳部員

大会事務局

総務	小池 圭太	関村 康則	業天真由美
競技	小池 圭太	関村 康則	業天真由美
輸送宿泊	細田 一輝	近畿日本ツリスト	
救護	相津 宏輔	坂口 学治	
記録	黒川 朋寛	十河 翔太	
会計	成澤 智子	佐久間悠子	

開会式

1. 開式宣言
2. 優勝杯返還
3. レプリカ贈呈
4. 大会長挨拶
5. 大会委員長挨拶
6. 審査委員長挨拶
7. 選手宣誓
8. 閉式宣言
- * 当番校より連絡

閉会式

1. 開式宣言
2. 成績発表
3. 優勝杯・賞状授与
4. 審査委員長講評
5. 大会委員長挨拶
6. 閉式宣言
- * 当番校より連絡

大会の審査要領

1. ペーパーテスト（登山についての基礎知識） 10点（4人の平均点）
2. 行動中テスト 5点
 - （地点確認ポイントによる読図…2点）
 - （隊長からの読図・自然等に関する質問…3点）
3. 審査の配点

①体力	30点	②歩行	20点
③装備	10点	④設営・撤収	5点
⑤炊事	5点	⑥気象	5点
⑦計画・記録	5点	⑧マナー	5点

研究課題 「大雪山の成り立ち」

大会日程

1日目 6月21日(火)

- 11:00 受付開始 12:30まで
- 12:00 専門委員会・安全対策委員会
- 13:00 開会式
- 13:30 監督会議 (天気図審査と同時進行で行います)
- 13:30 天気図審査 (録音したものを使用)
- 14:30 ペーパーテスト、審査委員会
- 17:00 夕食
- 20:00 就寝

2日目 6月22日(水) ※男子・女子とも全装行動

- 4:00 起床 朝食・昼食受け取り(1階フロント)
同時に風呂道具、テント1張りをまとめて持ってくること。
(全装行動しないパーティは、メインザックもこのときにバスに積み込むこと)
- 5:00 アートホテル旭川出発 バス乗車
(顧問・役員は各自で東川町民運動公園に移動して下さい)
- 5:20 顧問・役員は東川町民運動公園にてバス乗車
- 5:30 大雪遊水公園にてトイレ休憩
- 6:00 旭岳温泉登山口着
- 6:20 登山開始
- 8:20 姿見の池(姿見駅でトイレ利用可)
- 10:50 旭岳
- 13:00 姿見駅(下山時のみロープウェイ使用)
- 14:00 旭岳温泉登山口 バス乗車
- 15:00 幕営地
- 15:30 幕営審査
- 16:00 炊事審査
- 17:00 ペーパーテスト、天気図返却
- 20:00 就寝

荒天対策
旭岳登山口から姿見駅往復

3日目 6月23日(木) ※男子・女子ともサブザック行動

- 3:00 起床 朝食・昼食受け取り(海洋センター)
- 4:00 幕営地出発 バス乗車(顧問・役員も使用)
- 5:30 層雲峡ロープウェイ駅着 トイレ休憩
- 6:00 ロープウェイ乗車
- 6:30 5合目駅(リフト利用) トイレ利用可
- 7:00 7合目 登山開始
- 8:30 黒岳、黒岳石室 携帯トイレブース利用可
- 10:30 北鎮岳
- 11:30 中岳分岐
- 12:30 裾合平分岐
- 14:00 姿見駅(ロープウェイ使用)
- 15:00 旭岳温泉登山口駅 バス乗車
- 16:00 幕営地到着(風呂道具受け取り) バス乗車
- 16:40 入浴「森のゆ ホテル花神楽」 バス乗車
- 18:00 幕営地着 夕食受け取り(海洋センター) 読図用紙、行動テスト、記録書返却
- 21:00 就寝

荒天対策
吹上温泉から三段山往復

4日目 6月24日(金)

- 6:00 起床 朝食受け取り(海洋センター)
- 8:00 審査委員会(海洋センター)
- 9:00 テント撤収終了
- 9:30 閉会式(海洋センター体育館)
- 10:00 解散

コース概況 1

旭岳

大雪山は旭岳を中心とする山々の総称であり、大雪山という山は存在しない。また、国立公園名では「だいせつざん」となっているが、道民の多くからは「たいせつざん」と呼ばれて親しまれている。旭岳は大雪山系の最高峰（標高 2,291m）であり、北海道の最高峰である。高緯度にあるため、気象条件は日本アルプスの 3,000m 級の山々とほぼ同じとされている。

登山道は旭岳ロープウェイ駅（標高約 1,100m）に向かって右端から始まる。橋を渡るとすぐに針葉樹林帯に入る。登山道は木道で整備されて歩きやすい。木道を進むと第一天女ヶ原に着く。さらにアカエゾマツの森を進み、川を渡ると再び湿原が始まる。ここは第二天女ヶ原である。湿原を過ぎていくと登山道は傾斜のある登りに変わっていく。ここから徐々に高度を上げていく。植生は針葉樹からダケカンバの林に変わり、登山道脇にはシラタマノキなどの低木が混じってくる。さらに高度を上げるとハイマツも多くなり、森林限界へと近づく。このあたりの沢は盤ノ沢と呼ばれ、右手には小さな岩壁を伴った傾斜が続く。傾斜が徐々に緩やかになると分岐も近い。さらに進むと、あたりは高山帯の雰囲気になりロープウェイ姿見駅と旭岳石室へ向かう道との分岐に出る。右手には富良野岳からオプタテシケ山まで連なる十勝連峰を、その左にはトムラウシ山も見ることができる。大雪山の美しさとその広大さを感じる瞬間である。

「愛の鐘」がある小高い丘まで登ると姿見の池が目の前に現れる。風のないときは池に映る旭岳の姿を見ることができるだろう。丘の横には旭岳石室（標高約 1,665m）がある。旭岳石室は避難小屋であり、緊急時以外の宿泊は禁止されている。姿見の池から旭岳の頂上を目指して登っていく。踏み跡はほぼ明瞭だが天気の悪いときは、進む方向に気をつける。ここからは、斜面を登る変化の無い道が続くが、振り返れば白い噴煙と姿見付近の火口湖群がきれいに見える。そして、十勝連峰の左方に連なる山々

も次第に見えてくる。さらに高度を上げれば、トムラウシ山の背後に日高山脈も見えてくる。尾根上を登り続けてきたコースは、頂上の手前で岩塊が現れる。道はその岩塊をトラバースするように右傾斜に移る。ニセ金庫岩を確認しながら、沢地形に沿って急角度に左に曲がると爆裂火口の上に出る。そして、金庫岩を左手に見ながら最後の斜面を登れば旭岳の頂上（標高 2,291m）である。最後の斜面はザレ場で歩きにくいので、慎重に登ろう。山頂に出ると今まで見ることはできなかった新しい眺望が広がる。明日のコースである黒岳や北鎮岳も見ることができる。白雲岳、熊ヶ岳、ニセイカウシュッペ山、さらに遠くに斜里岳、羅臼岳まで見渡すことができる。下山時は大雪山の景色を楽しみながら歩いて欲しい。来た道を姿見駅まで下っていく。頂上直下の斜面はザレ場で非常に滑りやすいので注意しよう。沢状地形を回り込んだ後は爆裂火口の縁を忠実にたどって下る。迷うことはないが、視界不良の時は地図とコンパスで進行方向をしっかりと確認すること。旭岳石室まで下山すれば、今日の行動も終わりに近い。間違えて分岐で盤ノ沢に下って行かないように気をつけよう。下山はロープウェイを使用する。少し高くなった場所に姿見駅（標高約 1,560m）がある。振り返れば白い噴煙をあげる旭岳の雄姿をあらためて確認できるだろう。

コース概況 2

黒岳～北鎮岳～中岳

登山行動 2 日目は大雪山の縦走登山だ。黒岳からお鉢平を左手に見ながら、裾合平へと縦走路を抜けていく。「富士山に登って山岳の高さを語れ 大雪山に登って山岳の大きさを語れ」の言葉で有名な文学者の大町桂月が、層雲峡から大雪山を縦走したのが 1921 年 8 月。約 100 年前である。当時はまだ登山道も無く、登山というよりは冒険に近かったことが想像できる。桂月が「偉大にして変化に富める」山と評した大雪山。この山の素晴らしさを十分に楽しんで欲しい。

登山行動は黒岳 7 合目まではロープウェイとペアリフトを乗り継いで移動する。まず層雲峡駅からロープウェイに乗車して 5 合目の黒岳駅（標高約 1,300m）まで一気に標高をかせぐ。ロープウェイを下車したら、黒岳駅から舗装された道を少し歩けばすぐ黒岳ペアリフトの乗り場だ。リフトに乗り、7 合目（標高約 1,520m）までいくとすぐに登山開始となる。ここには登山事務所はあるがトイレは無いので注意しよう。リフト降り場付近は狭いので、渋滞しないように止まらず移動する。ここでは、エゾシマリスのかわいらしい姿を見ることができるかもしれない。登山道は最初から傾斜が急で、どんどん登っていく。しばらくはナナカマドなどの背の高いかん木帯の登りだ。振り返れば層雲峡の対岸に形のよいニセイカウシュッペ山などの山々が見える。登山道はジグを切りながら標高を上げていく。八合目にさしかかると傾斜は緩やかになる。高い位置に見えていたマネキ岩が、正面に見えれば頂上は目の前だ。黒岳の頂上（標高 1,984m）に出ると、大雪の山々が視野いっぱいに広がる。感動の大展望だ。右から凌雲岳、北鎮岳、旭岳を見ることができ、さらに左には北海岳、白雲岳、赤岳と続く。頂上は開けたガレ場だ。頂上から黒岳石室までは一本道を下っていく。なだらかな尾根を下れば、石室の赤い屋根が見えてくるはずだ。登山道横の雪溪を見ながら歩くとすぐ石室前の十字路に出る。右は黒岳石室へ、正面は雲ノ平を経て北鎮岳へ向かう。左は北海岳へ向かっている。コースは十字路をまっすぐ北鎮岳方向に進む。ハイマツ

帯の平坦地は雲の平だ。しばらくは一本道なので迷う心配はない。小さな尾根を登り
ければお鉢の外輪山の一角の展望台（標高約 2,020m）に出る。ハイマツ帯から急に広
がる大展望に感動の瞬間だ。ここで直径 2 キロメートルのすり鉢状のお鉢の内部が初
めて見える。お鉢の内部は有毒ガスが吹き出るといわれ、立ち入り禁止である。お鉢
の縁に沿ってガレた斜面を登ると、北鎮分岐までつながる大きな雪渓に出る。この雪
渓は夏山シーズン中も遅くまで残っている。傾斜があるのでキックステップで慎重に
登ろう。雪渓を登りければ北鎮分岐に出る。北鎮岳の山頂目指して砂れきの急斜面を
登る。ジグを切りながらの登りは意外と短い。北鎮岳山頂（2,244m）からは比布岳、
永山岳、愛別岳などのすばらしい景色が展開する。北海道第二の高峰だけあって眺望
は非常によく、お鉢の全容をはじめ、旭岳からトムラウシ山、十勝連峰なども見渡せ
るだろう。頂上から不安定な足場の急斜面を下って北鎮分岐に戻る。分岐からは中岳
を目指して歩いていく。ほとんど起伏のない稜線上にある中岳（標高 2,113m）の山頂
は、周囲の展望に気をとられていると、知らぬ間に通りすぎてしまいそうだ。中岳を
下りきったコルが中岳分岐だ。真っ直ぐ進めば間宮岳、右に曲がれば中岳温泉である。
ここからはお鉢平に別れを告げてハイマツ帯の中を中岳温泉に向かって下っていく。
これから歩く裾合平の広大な景色を見ながら、急な下りへと向かっていく。硫黄の匂
いを感じながら切り立った溪谷を下れば中岳温泉（標高約 1,840m）である。温泉とい
っても設備はなく、沢のほとりに浴槽が掘られているだけである。深い溪谷から雪渓
の上を歩き進め、緩やかな斜面を下れば、裾合分岐（標高 1,690m）だ。この分岐は T
字路となっており、右折すると沼ノ平を経由して愛山溪温泉へ至る道、左折するとロ
ープウェイ姿見駅に向かう。姿見駅に向かう道は旭岳北西斜面のトラバースとなる。
緩やかに登った後は幾本もの沢地形を渡るので、アップダウンの繰り返しとなる。幾
つもの山に囲まれた裾合平から、徐々に姿見駅が近づいてくる。旭岳の噴煙が見え、
夫婦池まで来れば縦走登山もほぼ終わりとなる。姿見駅からはロープウェイで下山す
る。

大会参加校数一覧

支 部 名	全道大会						支部大会			
	参加校数			参加者数			参加校数	参加者数		
	男	女	計	男	女	計	合計	男	女	計
札幌	3	3	6	12	12	24	8	74	25	99
室蘭	1	2	3	4	8	12	2	28	9	37
小樽	1	0	1	4	0	4				
南空知										
旭川	3	3	6	12	12	24	5	59	29	88
北見	1	1	2	4	4	8	2	32	11	43
十勝	2	0	2	8	0	8	4	34	18	52
釧根	1	1	2	4	4	8	2	12	9	21
函館	1	1	2	4	4	8	3	20	4	24
計	13	11	24	52	44	96	26	259	105	364

先輩の踏み跡

全国大会優秀校

回	期 日	会 場	当番高校	優勝校(男)	優勝校(女)
1	1962.7.10～7.12	大雪山系	旭川東	芦 別	旭川東
2	1963.6.29～7. 1	大雪山系	上 川	札幌南 苫小牧東	芦 別
3	1964.7. 2～7. 4	ニセコ連峰	倶知安	旭川東 小樽千秋	旭川東
4	1965.7. 2～7. 4	富良野岳・十勝岳	富良野	増 毛 遠 軽	旭川東
5	1966.6.24～6.26	十勝岳・美瑛岳 美瑛富士	美 瑛	旭川東 増 毛	旭川東
6	1967.6.22～6.24	樽前山・風不死岳 恵庭岳	苫小牧東	旭川東 北見柏陽	旭川東
7	1968.7. 4～7. 5	ウベベサンケ	帯広三条	旭川東 芦 別	旭川東
8	1969.7. 3～7. 5	芦別岳・富良野西岳	芦 別	芦 別 帯広柏葉	芦 別
9	1970.7. 2～7. 4	横津岳・駒ヶ岳	遺愛女子 函館西	標 茶 帯広農業	遺愛女子
10	1971.7. 1～7. 3	大雪山系	旭川商業	芦別工業 旭川東	芽 室
11	1972.6.29～7. 1	知床山系	北見柏陽	旭川東 北見北斗	標茶農業
12	1973.6.28～6.30	十勝連峰	旭川東	深川西 函館有斗	旭川東
13	1974.7. 4～7. 6	天狗岳・余市岳	北海道工業	函館有斗 増 毛	芽 室
14	1975.6.26～6.28	羅臼岳・羅臼湖	標茶農業	標茶農業 増 毛	標茶農業
15	1976.6.23～6.25	夕張岳(日陰の沢)	美唄工業	美唄工業 小樽工業	標茶農業
16	1977.6.22～6.24	天塩岳	士 別	旭川東 北見北斗	標茶農業
17	1978.6.28～6.30	大千軒岳	函館有斗 函館白百合 函館ラ・サール	標茶農業 小樽工業	函館白百合
18	1979.6.28～6.30	室蘭岳・カムイヌプリ	室蘭工業	八 雲 旭川東	函館白百合
19	1980.6.26～6.28	ニセコ連峰	小樽工業	北見北斗	北見北斗
20	1981.6.25～6.27	空沼岳・札幌岳	札幌慈恵	富良野工業 北見北斗	函館白百合
21	1982.6.23～6.25	夕張岳	夕張工業	檜山北	旭川商業
22	1983.6.23～6.25	暑寒別岳・雨竜沼	砂川南	富良野工業 八 雲	北見北斗
23	1984.6.21～6.23	富良野岳・芦別岳	富良野工業	帯広柏葉	北見北斗
24	1985.6.20～6.22	斜里岳・羅臼岳	網走南ヶ丘	東 川 網走南ヶ丘	網走南ヶ丘
25	1986.6.26～6.28	雄阿寒岳・雌阿寒岳 阿寒富士	標 茶	北見北斗	標 茶
26	1987.6.17～6.20	羊蹄山・アンヌプリ チセヌプリ・目国内岳	札幌新陽	小樽工業 北見北斗	旭川東栄
27	1988.6.23～6.25	ウベベサンケ山・ニベソツ山	帯広柏葉	小樽工業	旭川東栄
28	1989.6.22～6.24	駒ヶ岳・狩場山	函館中部 檜山北 遺愛女子	富良野工業 小樽工業	旭川東栄
29	1990.6.21～6.23	幌尻岳・トッタベツ岳	苫小牧東 静 内	小樽工業	旭川東栄
30	1991.6.20～6.22	羊蹄山・目国内岳・雷電山	倶知安	小樽工業 札幌稲西	江 別
31	1992.6.18～6.20	富良野岳・芦別岳	富良野	小樽工業	江 別
32	1993.6.23～6.25	夕張岳	夕張緑ヶ丘実業	旭川東 富良野工業	旭川東
33	1994.6.23～6.25	硫黄山・羅臼岳	北見北斗	旭川東	旭川東
34	1995.6.21～6.23	余市岳・無意根山	札幌稲西	旭川東 富良野工業	札幌南
35	1996.6.27～6.29	沼ノ原・トムラウシ山	帯広農業	札幌南	江 別
36	1997.6.19～6.21	恵山・海向山 白水岳～遊楽部岳	函館東 檜山北 函館ラ・サール	札幌南 札幌工業	北見北斗
37	1998.6.24～6.26	アポイ岳・イドンナップ岳	静 内	旭川東	北見北斗
38	1999.6.17～6.19	十勝連峰	富良野緑峰	札幌南 旭川東	北見北斗
39	2000.6.21～6.23	斜里岳・雄阿寒岳	釧路湖陵	札幌南	北見北斗
40	2001.6.20～6.22	羊蹄山・ニセコ山系	小樽湖陵	札幌南 札幌工業	旭川東
41	2002.6.26～6.28	美唄山・樺戸山地	美唄工業	札幌工業	北見北斗
42	2003.6.25～6.27	知床硫黄山・羅臼岳	北見北斗	北見北斗 札幌南	札幌南
43	2004.6.23～6.25	十勝幌尻岳・伏美岳 ビバイロ岳	帯広農業	江 別	北見北斗
44	2005.6.22～6.24	無意根山・羊蹄山	札幌南	札幌南 江 別	八 雲
45	2006.6.21～6.23	白水岳・狩場山	函館ラ・サール	札幌南	八 雲
46	2007.6.20～6.22	ペンケヌーシ岳 チロロ岳	静 内	札幌南 北見北斗	北見北斗
47	2008.6.25～6.27	美瑛岳・旭岳	旭川東	旭川東	北見北斗
48	2009.6.24～6.26	斜里岳・雄阿寒岳	釧路湖陵	旭川東 札幌北	旭川東
49	2010.6.23～6.25	神威岳・烏帽子岳 札幌岳・空沼岳	札幌稲西	札幌北	旭川東
50	2011.6.21～6.24	岩内岳～目国内岳 羊蹄山	小樽桜陽	札幌北	旭川東
51	2012.6.26～6.29	ピンネシリ 南暑寒岳～暑寒別岳	岩見沢東	札幌北	北星学園女子
52	2013.6.25～6.28	斜里岳 羅臼岳	遠軽(協力校:北見北斗)	北見北斗	旭川東
53	2014.6.24～6.27	ウベベサンケ山・ニベソツ山	帯広柏葉	帯広柏葉	帯広柏葉
54	2015.6.23～6.26	風不死岳 樽前山 羊蹄山	札幌西	旭川東	旭川東
55	2016.6.21～6.24	長万部岳 狩場山	遺愛女子	旭川東	旭川東
56	2017.6.20～6.23	カムイヌプリ～室蘭岳 来馬岳～オロフレ山	室蘭栄	釧路湖陵	旭川東
57	2018.6.26～6.29	上ホロカメツク山～十勝岳 オブタテシケ山	旭川北	旭川東	釧路湖陵
58	2019.6.25～6.28	雄阿寒岳 雌阿寒岳	釧路北陽	帯広柏葉	釧路湖陵
59	中 止	(札幌岳・岩内岳・目国内岳・白樺山)	(北広島)		
60	2021.6.22～6.25	上ホロカメツク山～十勝岳 北鎮岳～旭岳	旭川北	旭川東	旭川北
61	2022.6.21～6.24	旭岳・黒岳～北鎮岳～中岳	旭川工業		

全道高校体育大会参加における個人情報及び肖像権に関わる取り扱いについて

北海道高等学校体育連盟
令和4年度全道高校体育大会当番校

北海道高等学校体育連盟及び令和4年度全道高校体育大会当番校は、大会参加申込書等を通じて取得される個人情報及び肖像権の取り扱いに関して以下の通り対応します。

1 参加申込書に記載された個人情報の取り扱い

- (1) 大会プログラムに掲載されます。
- (2) 競技場内でアナウンス等により紹介されることがあります。
- (3) 競技場内外の掲示板等に掲載されることがあります。

2 競技結果（記録）等の取り扱い

- (1) 当番校が認めた報道機関等により、新聞・雑誌及び関連ホームページ等で公開されることがあります。
- (2) 大会プログラム掲載の個人情報とともに、当番校が作成する大会報告書（以下報告書という）に掲載されます。
- (3) 新記録、優勝及び上位入賞結果（記録）等は、次年度以降の大会プログラムに掲載されることがあります。

3 肖像権に関する取り扱い

- (1) 当番校が認めた報道機関が撮影した写真が、新聞・雑誌・報告書及び関連ホームページ等で公開されることがあります。
- (2) 当番校が認めた報道機関が撮影した映像が中継または録画放映及びインターネットにより配信されることがあります。また、DVD等に編集され、配付されることがあります。
- (3) この他、北海道高等学校体育連盟の許可に基づき、記念写真等が販売されることがあります。

4 当番校としての対応について

- (1) 取得した個人情報を上記利用目的以外に使用することはありません。
- (2) 参加申込書の提出により、上記取り扱いに関するご承諾をいただいたものとして対応させていただきます。
- (3) 大会役員、競技役員、運営委員、その他各種委員や補助員、当番校と大会に関する契約をしている者、大会運営関係者の皆様につきましては、上記取り扱いに関するご承諾をいただいたものとして対応させていただきます。
- (4) 記念写真等の販売について業者から直接当番校へ問い合わせがあった場合は、一括道高体連事務局で対応しますので業者へご連絡ください。
- (5) 個人情報等の掲載または公開等に関してのご質問は、北海道高等学校体育連盟事務局までご連絡ください。

連絡先・問い合わせ先
北海道高等学校体育連盟事務局
011-826-3300

× 毛

祝

第 61 回 北海道高等学校登山選手権大会
兼
第 66 回全国高等学校登山選手権大会北海道予選会

2022 年 6 月 21 日～24 日
旭岳、黒岳～北鎮岳～中岳



北海道、山、店 秀岳荘

<http://www.shugakuso.com>